

第3 障害者スポーツ文化センターラポール運営事業

横浜ラポール及びラポール上大岡は、横浜市の障害児・者のスポーツ・文化・レクリエーション振興の中核拠点施設として、障害児・者の多様化するニーズに即した事業を行いました。事業の実施にあたっては、多様なプログラムの展開、地域資源との連携を強化した取組、障害者のスポーツ・文化活動に関する積極的な情報の発信に努めました。

<障害者スポーツ文化センターラポール全体の重点項目>

- ◇ 日本で初めて開催された「東京 2025 デフリンピック」に関連して、シアターエントランス前に案内コーナーを設置するとともに、開催直前にはデフリンピックキャラバンを招致し、横浜市聴覚障害者協会と協力したセレモニーを実施するなど、周知に努めました。
- ◇ 障害者スポーツ・文化活動の中核施設として、地域におけるパラスポーツの普及振興をより一層推進するため、スポーツ用具の貸与制度を整備し、年間 23 件の貸し出しを実施しました。また、タイムリーな情報発信とアクセシビリティの向上を目的としてホームページをリニューアルし、プログラムやイベントに関する周知を強化しました。
- ◇ 令和 6 年度下半期から実施していたラポールシアター及びプールの大規模改修工事が令和 8 年 3 月末をもって完了し、安全性及び快適性の向上を図りました。また、ボウリングマシンを更新し、稼働音の軽減を図ることで、感覚過敏のある方にとって利用しやすい環境整備に努めました。
- ◇ 特別支援学校等に対して、ラポールの円滑な利用を促すための環境整備や助言を行うとともに、一部の特別支援学校では、車いすファンサッカーの定期練習会を実施するなど、障害者スポーツ・文化活動の推進に向けた取組を行いました。
- ◇ 重度障害のある方が文化芸術活動に参加しやすい取組として、巨大壁画制作のアートワークショップにおいて一般枠とは別の時間帯を設けることで、安心してじっくり楽しめる環境を整えるとともに、重度障害者施設を訪問し、作品制作の支援を行いました。

(実績)

※()内は昨年度

施設名	開館日数		施設利用者数	
横浜ラポール	345 日	(345 日)	243,021 人	(264,219 人)
ラポール上大岡	305 日	(306 日)	30,806 人	(29,067 人)

1 スポーツ振興

- ◇ 障害のある方が気軽に運動・スポーツに触れ、楽しむことができる環境づくりを目的として、研究開発課及び地域サービス課と連携し、特別支援学校に在籍する児童生徒等を対象とした車いすファンサッカー体験会を 4 回実施しました。また、高次脳機能障害支援センター及び機能訓練課と連携し、高次脳機能障害のある利用者を対象としたスタートプログラムに 30 回参画し、対象者の状況に応じた支援方法を工夫するとともに、リハセンター利用からプログラム修了後のラポール利用まで、

切れ目のない支援を実施するなど、参加者の利便性向上に向けた取組を行いました。

- ◇ 各種競技団体及び関係団体と連携し、バスケットボール 3 種、卓球 4 種、聴覚障害者用のスタート補助装置を使用した陸上競技練習会、視覚障害者及び協調性・バランスに障害のある方用の補助装置を使用したランニング体験会のほか、ウォーキング、車椅子バスケットボール等の教室、体験会及び大会を開催し、令和 6 年度より 17 種類多いプログラムを実施しました。
- ◇ 学齢期から成人期まで切れ目のない支援として、特別支援学校や障害福祉施設等を対象に、60 件を超える支援を実施しました。また、一部の特別支援学校においては、学校施設を活用した定期練習会を 8 回開催するとともに、中学部及び高等部の保健体育授業において 3 か月間、車いすファンサッカーが導入されるなど、障害者スポーツ活動の推進につながる取組を実施しました。

(実績)

※()内は昨年度

スポーツ大会・交流イベント	参加者	1,081 人	(1,282 人)
リハビリテーション・スポーツ教室、相談等	参加者	5,016 人	(3,934 人)
スポーツ・レクリエーション教室	参加者	1,381 人	(1,638 人)
障害者スポーツ指導員・ボラ研修等	参加者	339 人	(590 人)
地域での支援事業（ラポール上大岡含む）	参加者	5,643 人	(5,152 人)

2 文化振興

- ◇ ラポールシアター工事期間中は、ラポール内の代替施設でイベントを開催したほか、吉野町市民プラザや港南区民文化センター等の他施設と連携し、イベントを実施しました。車椅子利用者の動線確保や視覚障害者への誘導・対応等について協議を行い、ラポールとは異なる環境下においても、利用者が安心・安全に参加できるよう配慮しました。
- ◇ ラポール文化施設全体において、おもちゃ図書館では老朽化したおもちゃや備品の入替えを行うとともに、「遊びエリア」のフロアマットを更新しました。また、ロビー展示に使用する展示パネルについて、地震等の災害に備え、吊りパネルから安全性の高いパネルへ変更するなど、環境整備に努めました。
- ◇ 港北公会堂において障害のある方によるダンスコンテストを開催したほか、「障害者週間」では新都市プラザにおいて障害のある当事者による歌唱やアート作品の発表を行いました。また、「世界自閉症啓発デー」では、市内複数の商業施設において当事者の絵画作品を展示するなど、ラポール内に限らず、障害者の作品発表機会の創出に向けた取組を行いました。

(実績)

※()内は昨年度

	件数	参加者数
講座・行事	56 件 (74 件)	9,340 人 (12,178 人)

3 聴覚障害者情報提供施設

- ◇ 聞こえの相談については、相談対応日の拡大により、相談件数が 91 件に増加しました。また、加齢性難聴をテーマとした出前講座については、老人クラブ連合会のシニア大学やケアプラザ等からの依頼を受け、計 15 件実施しました。さらに、聞こえに悩みを持つ方同士の交流を深めることを目的とした「聞こえの交流サロン」を令和 6 年度より回数を増やして 3 回実施し、読話等のコミュニケーション体験、聞こえを支援する機器の紹介、難聴者による体験談の共有等を行いました。
- ◇ 派遣・相談事業について、事業利用の拡大を目的として、聴覚障害者団体やろう学校同窓会等へ職員が出向き、事業に関する説明を行いました。また、通訳派遣や相談の利用申込みがフォームから行えるようホームページを改修するとともに、公式 LINE アカウント「らぼらいん」において、「情提事業に関するよくあるご質問」を手話動画で掲載するなど、利便性の向上及び事業の周知に向けた取組を行いました。
- ◇ 市長定例会見に対応可能な通訳者の養成を目的として、外部講師を招き、現場に即した研修を実施しました。また、医療現場をテーマとした研修では、実際の通訳場面において適切に対応できるよう、事例検討や模擬通訳練習を行いました。

(実績)

※()内は昨年度

手話・筆記通訳派遣	延べ 11,970 人	(延べ 12,461 人)
聴覚障害者相談	延べ 1,468 件	(延べ 1,247 件)

4 ラポール上大岡

- ◇ 全国障害者スポーツ大会で実施される競技を中心に普及及び強化を図るとともに、団体種目における競技者の拡大に向けた取組を行いました。具体的には、地域の既存フィールドを活用し、岸根公園野球場におけるキャッチボール・バッティング体験会の実施や、令和 8 年度のハマピック会場としてのシミュレーションを兼ねた金沢区会場でのボウリング大会の開催などを新たな取組として実施しました。
- ◇ 横浜市スポーツ協会、障害福祉事業所、ケアプラザ、地区社会福祉協議会等の関係団体と連携し、無理なく継続できる形でスポーツや文化活動に親しめる機会の創出を進めました。また、障害者団体やボランティア団体の協力のもと、ホームページにおける視覚障害者向けアクセス案内について、読み上げ用テキスト及び音声案内を整備するなど、アクセシビリティの向上を図りました。
- ◇ ホームページを通じて、ラポール主催事業に加え、障害者のスポーツ・文化サークルや関係団体が実施するイベント情報を幅広く発信しました。また、障害者週間にあわせて「ハートフルタウン上大岡」を開催し、障害理解の促進及び地域への周知を図りました。

(実績)

※()内は昨年度

地域支援（横浜ラポール含む）	参加者	5,643 人	(5,152 人)
主催プログラム	参加者	23,018 人	(20,706 人)
連携団体プログラム事業	参加者	4,159 人	(4,458 人)